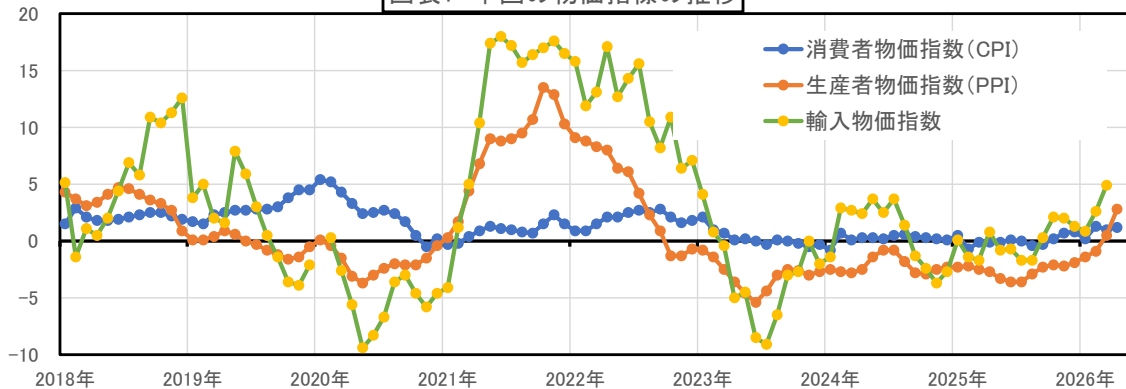


(中国)輸入物価の急上昇などを背景に、PPI 上昇率は予想を上回る

4月の消費者物価指数(CPI)は前月比0.3%、前年比1.2%となり、いずれも3月(同▲0.7%、同1.0%)から上昇した。加えて、食品とエネルギーを除いたコアCPIは前年比1.2%の上昇にとどまり、依然として低水準で推移している。一方、生産者物価指数(PPI)は前月比1.7%、前年比2.8%と、3月(同1.0%、同0.5%)からいずれも上昇し、市場予想を大きく上回った。

(%前年比)

図表1 中国の物価指標の推移



(資料)中国国家统计局、中国海関総署、Windより作成、直近は26年4月、輸入物価指数は26年3月。

4月のCPI前月上昇率がプラスに転じた背景には、食料品価格が下落する一方で、ガソリン価格が大きく上昇したことがある。食品価格は前月比▲1.6%となったが、ガソリン価格は同12.6%と、3月(同11.1%)に続き大幅な上昇が続いている。

さらに、清明節連休(4月4~6日)に加え、一部地域で春休みが導入されたことを受け、交通・宿泊関連のサービス価格が上昇した。また、AIブームを背景に電子部品価格が上昇し、スマートフォンなどの通信機器の価格も上昇した。これらもCPIを押し上げる要因となっている。

とはいえ、不動産市場調整の長期化や内需回復力の弱さを背景に、CPIの回復ペースは依然として緩やかなものにとどまっている。先行きについては、原油価格の高止まりが続くとみられることから、5月のCPI前年比は1.5%と、4月から小幅に上昇すると見込まれる。

PPI前月比は4月に1.7%と、7か月連続のプラスとなった。上昇率は3月から0.7ポイント拡大しており、これは過去49か月で最大の上昇幅である。その背景としては、中東情勢の影響を受け、原油や鉱物などの輸入価格が大幅に上昇したことが挙げられる(図表1)。これにより、国内の石油・天然ガス採掘業や金属関連産業の価格が大きく上昇した。石油・天然ガス採掘業は前月比18.5%、石油・石炭・そのほか燃料加工業は同16.4%、化学原料・化学製品製造業は同8.3%と、いずれも上昇率が大きく拡大している。

このほか、国内では反内巻政策(過度な値下げ競争の是正に向けた政策)への取組みが進展していることに加え、一部の産業で国内需要の回復もみられる。これを受けて、新エネルギー自動車(EV)、太陽光パネル、蓄電池、リチウムイオン電池などの価格が上昇しており、これらもPPIを押し上げる要因となっている。

先行きについても、原油価格が高止まりする可能性があることから、5月のPPI前年比は3.5%と、4月に続いて上昇すると見込まれる。